

1 820/5

(4.2) 820

支那事變處理根本方針（御前會議議題）

昭和二十一年二月九日
支那事變處理根本方針

交場へ保存シート

0103

241

240 INT 357

105

REEL No. A-0213



アジア歴史資料センター

支那事變處理根本方針（御前會議議題）

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及ヒ支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乘的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及ヒ領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ擧クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スルコト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省謙意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於テハ別紙(甲)日支講和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ講和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進テ支那ノ復興發展ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之

IMT 357

107

243

242

IMT 357

106

0104

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議 決定

0105

昭和十三年一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ、
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラレ、

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ
之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切
ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土
ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變
ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確
約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其

0106

他凡ニル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動
ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スル
コト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通リノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項
ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省懺意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於
テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ

1.1.1.0 - 27

1312

1311

1.1.1.0 - 27

保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興發展ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政府ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲メ國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優

0107

3 8 1.1.1.0 - 27 1313

位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

0108

8 1.1.1.0 - 27 1314

日支媾和交渉條件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉グルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト

8 1.1.1.0 - 27

1315

0109

- 七、中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
- 九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

- (一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト
 - (二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
- 支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條

0110

6 8 1.1.1.0 - 27 1316

項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的
要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

0111

1.1.1.0-27 1317

別紙

(一)別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一、第三項ノ非武装地帯

二、第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益
及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三、第七項ノ非武装地帯

四、附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二)媾和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原秦德純協定、上海停戰
協定

二、保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例ヘハ
治外法權、租界、駐兵權等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

1.1.1.0-27 1318

0112

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議 議 決定

昭和十三年一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ、
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラル
帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ
之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切
ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大衆的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土
ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ擧クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變
ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確
約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其

他凡ニル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動
ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スル
コト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通リノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項
ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省翻意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於
テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ

保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興發展ニ衷心協力スルモノトス

(二)支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政府權ノ益下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三)本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲メ國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四)第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優

位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五)國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導ス對外啓發ニツキテモ亦尚シ

日支媾和交渉條件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉グルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト

8 1.1.1.0 - 27

1315

0115

- 七、中支占據地帯ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
- 九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

- (一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト
 - (二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
- 支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條

8 1.1.1.0 - 27 1316

項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的
要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

0116

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一、第三項ノ非武装地帯

二、第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益
及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三、第七項ノ非武装地帯

四、附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二) 媾和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原襄德締協定、上海停戰
協定

二、保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例ヘハ
治外法權、租界、駐兵權等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

8 1.1.1.0-27

1318

8 1.1.1.0-27

1317

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議 決定

昭和十三年一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ、
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラル
帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ
之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切
ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土
ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ擧グルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變
ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確
約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其

他凡ニル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動
ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スル
コト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通リノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項
ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省翻意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於
テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ

8 1.1.1.0 - 27

1312

8 1.1.1.0 - 27

1311

0117

保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興發展

ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ
相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長シ
コレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現
中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政府ノ傘
下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲
國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好
關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優

位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導
ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

日支媾和交渉条件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト

22 8 1.1.1.0 - 27 1315

七、中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト

八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト

九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

(一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス

支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條

8 1.1.1.0 - 27 1316

項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的
要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

0120

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一、第三項ノ非武装地帯

二、第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラレヘキ特殊權益
及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三、第七項ノ非武装地帯

四、附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二) 構和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原泰德純協定、上海停戰
協定

二、保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例ヘハ
治外法權、租界、駐兵權等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

S 1.1.1.0-27

1318

S 1.1.1.0-27

1317

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議決定

昭和十三年一月十一日
御前會議ニ於テ決定セラレ
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラレ

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成
シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一
切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乘的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及
領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先
ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩
國間ニ確約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、
其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル
行動ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期ス

外務省

1.1.1.0-27 1319

0121

ルコト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各
項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省謙意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ
於テハ別紙(甲)日支講和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ講和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中
ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興
發展ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之
ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助
長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス
支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央

外務省

1.1.1.0-27 1320

0122

政權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ専ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

外務省

1.1.1.0-27 1321

0123

別紙 甲

日支媾和交渉條件細目

- 一 支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二 支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三 北支及内蒙ニ非武裝地帯ヲ設定スルコト
- 四 北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五 内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六 支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト
- 七 中支占據地帯ニ非武裝地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八 日滿支三國ハ資源ノ開發・關稅・交易・航空・交通・通信等ニ

外務省

1.1.1.0-27 1322

0124

關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
ハ支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト
附記

(一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

外務省

Q125

6 1.1.1.0-27 1323

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一 第三項ノ非武裝地帶

二 第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三 第七項ノ非武裝地帶

四 附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二) 購和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一 梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原秦德純協定、上海停戰協定

二 保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例ハ治外法權、租界、駐兵等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

外務省

Q126

8 1.1.1.0-27 1324

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ顧ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シク政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

外務省

S 1.1.1.0-27 1325

0127

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議ニ於テ決定セラレ
御前會議ニ於テ決定セラレ

昭和十三年一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラレ
帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ
右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉グルヲ以テ窮極ノ前途トシ先ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確約ス
(一)日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動ヲ禁絶スルコト
(二)日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期ス

外務省

S 1.1.1.0-27 1326

0128

ルコト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ
共同互恵ヲ約定スルコト
右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各
項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省懺意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ
於テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス
帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中
ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興
發展ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之
ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケヌ新興支那政權ノ成立ヲ助
長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス
支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1327

0129

政權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル
爲メ國家總力就中國防カノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ
友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ
優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國體ヲ指
導ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1328

0130

別紙 甲

日支講和交渉条件細目

- 一 支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二 支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三 北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四 北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五 内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六 支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ國政策ニ協力スルコト
- 七 中支占據地帯ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八 日滿支三國ハ資源ノ開發・關稅・交易・航空・交通・通信等ニ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1329

0131

關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
 六 支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

- (一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト
 - (二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
- 支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展・國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1330

0132

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一 第三項ノ非武装地帯

ニ 第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權

益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三 第七項ノ非武装地帯

四 附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權

益

(二) 講和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一 梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原秦德純協定、上海停

戰協定

ニ 保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(一例ヘ

ハ治外法權、租界、駐兵等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1331

0133

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フ
ル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ
抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ願
ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト
眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國
國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ
支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モ
カハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ
政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止
マズ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1332

0134

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日
御前會議ニ於テ決定セラレ
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラレ

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成
シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一
切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及
領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ以テ窮極ノ目標トシ先
ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩
國間ニ確約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、
其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル
行動ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期ス

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1333

0135

ルコト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各
項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省謙意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ
於テハ別紙(甲)日支講和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ講和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中
ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進シテ支那ノ復興
發展ニ衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之
ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助
長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス
支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1334

0136

政權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲メ國家總力就中國防カノ急遽ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル機關論ヲ指導ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1335

0137

別紙 甲

日支講和交渉條件細目

- 一 支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二 支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三 北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四 北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五 内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ外蒙ニ同シ
- 六 支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ國策ニ協力スルコト
- 七 中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八 日滿支三國ハ資源ノ開發・關稅・交易・航空・交通・通信等ニ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1336

0138

關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
ハ支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

(一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

外務省

0139

S 1.1.1.0 - 27

1337

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一 第三項ノ非武装地帯

ニ 第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

ニ 第七項ノ非武装地帯

ニ 附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二) 講和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一 梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原榮德純協定、上海停戰協定

ニ 保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例ヘハ治外法權、租界、駐兵等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

外務省

0140

S 1.1.1.0 - 27

1338

帝國政府 聲明 (昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ。然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ顧ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス。元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ

政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1339

0141

支那事變處理根本方針

昭和十三年一月十一日 閣前會議ニ於テ決定セラレ

一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラレ

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期ス

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1340

0142

ルコト

(三)日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ
共同互惠ヲ約定スルコト
右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各
項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一)支那現中央政府ニシテ此際反省兼意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ
於テハ別紙(甲)日支講和交渉條件ニ準據シテ交渉ス
帝國ハ將來支那側ノ講和條項實行ヲ確保スルニ至ラハ右條件中
ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興
發展ニ衷心協力スルモノトス

(二)支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之
ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助
長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス
支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央

外務省

0143

S 1.1.1.0 - 27 1341

政權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三)本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル
爲メ國家總力就中國防カノ急遽ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ
友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四)第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ
優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五)國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル機關論ヲ指
導ス對外啓蒙ニツキテモ亦同シ

外務省

0144

S 1.1.1.0 - 27 1342

別紙 甲

日支締和交渉條件細目

- 一 支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二 支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三 北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四 北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五 内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六 支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト
- 七 中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八 日滿支三國ハ資源ノ開發・關稅・交易・航空・交通・通信等ニ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1343

0145

關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
 九 支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト
 附記

- (一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト
 - (二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス
- 支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展・國民的要素ニ衷心協力スルノ用意アリ

外務省

S 1.1.1.0 - 27 1344

0146

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一 第三項ノ非武装地帯

ニ 第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三 第七項ノ非武装地帯

四 附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益

(二) 講和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定

一 梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原榮德純協定、上海停戰協定

ニ 保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(一例ヘハ治外法權、租界、駐兵等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

外務省

S. 1.1.1.0-27 1345

(0147

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ願ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ
政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

外務省

S. 1.1.1.0-27 1346

(0148

820

東亞局長

軍務課

陸

軍

保存期限
決裁指定
決行指定

政務次官回付 決裁後前連帶
參與官回付 決裁後前連帶

決行(決裁)後
回覧課名

起元應課名 軍務課

件名 支那事變處理根本方針決定ノ件

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|----|-----|----|-----|----|----|----|
| 大臣 | | 政務次官 | | 參與官 | | 書記官 | | 審案 | |
| 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 |
| 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 |
| 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 | 局長 | 次官 |

大臣及參謀總長ヨリ
 關東軍司令官 北支那方面軍司令官
 駐蒙兵團司令官 中支那方面軍司令官
 官、台灣軍司令官、朝鮮軍司令官宛
 電報案(至急親展極秘情報)

一月十一日午后御前會議ニ於テ支那事變
 處理根本方針決定セラル其本文ハ通シ
 傳達スヘキモ不取敢現地ニ必要ナル要旨
 左ノ如シ

IMT 357 109 762 701 IMT 357 108 0149

日滿支提携ノ國是ニ基キ^{日支}西國々交ヲ
 大乘的基礎ノ上ニ再建スル如ク事變ヲ
 處理スル爲帝國ハ政戰西略ノ緊密ナル
 運用ニ依リ支那現中央政府ニシテ此際
 反省翻意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於
 テハ日支直接媾和交渉ヲ開始ス若シ
 和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ其
 爾後之ヲ相手トスル事要解決ニ期待
 ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長
 シコレト西國々交ノ調整ヲ協定シ更生
 新支那ノ建設ニ協力シ支那現中央政
 府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又
 ハ新興中央政權ノ傘下ニ收容セラ
 ルル如ク施策ス

陸軍

10.10

IMT 357

111

114

IMT 357

110

0150

820

| | | | | | | | |
|-------------|---|------------------|---|--|---|--|-------------------------|
| 電 信 案 | 独 り 及 其 他 の 事 務 に 関 連 す る 事 務 | 電 イ リ 後 | 英 ヨ リ ハ 蘇 聯 土 ヲ 除 キ 他 の 各 大 使 及 對 外 の 事 務 | 本 電 及 別 電 宛 先 英、米、土、匈、比、米、米、探、滿 | 本 件 取 扱 特 に 慎重 ヲ 期 ス ル 後 | ハ 別 電 合 カ 一 〇 一 号 一 通 達 定 ム | (原 議 用 紙 乙) |
|-------------|---|------------------|---|--|---|--|-------------------------|

248 INT 357 114 0153

大臣官

亞米利加局長

820

(分類)

| | | | | | | | | |
|-------------|--|---|---|---|---|-----------------------|--|--|
| 電 信 案 | 引 用 一 別 電 甲 ハ 別 電 合 カ 一 〇 〇 号 別 電 乙 | 本 方 針 別 電 合 カ 九 九 号 (同 電 甲) | 十 日 内 閣 會 議 に 於 テ 支 那 事 務 變 更 理 根 | 電 送 第 658 663 號 昭和十三年一月十一日午後九時十分發 | 支 那 事 務 變 更 理 根 本 方 針 決 定 ノ 件 | 瑞 士 米、英、比、米、米、探 | 管 主 東 亞 局 長 任 主 第 二 課 長 | 昭 和 十 三 年 一 月 十 一 日 起 草 |
|-------------|--|---|---|---|---|-----------------------|--|--|

249 INT 357 113 0152

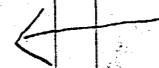
820

(分類)

| | | | |
|-------------|-----------------------|--|--|
| 電 信 案 | 別 電 | 電送第 682 687 號 | 管主 |
| | | 昭和 17 年 1 月 2 日 午前 2 時 10 分 發 | 電信課長 |
| 外 務 省 | 合 第 九 九 號 | 名 件 | 任主 |
| | | 名 件 記 | 發電係 |
| | | 針 那 湯 上 梅 菜 (西前合議之趣) 比 平 水 交 渉 倉 田 大 臣 | 主 任 東 亞 局 長 西 澤 一 郎 昭 和 十 七 年 一 月 二 日 起 草 |

極 秘 館 長 符 號 扱

左記の如く



0155 116 IMT 357 200

820

| | |
|-------------|--|
| 電 信 案 | 米 ヨリ 紐 ヲ 月 俾 テ 轉 送 ス ル 事 ニ 依 リ |
| 外 務 省 | ア リ 交 |

(原議用紙乙)

0154 115 IMT 357 249

支那事變處理根本方針

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及ビ支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ
右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及ビ領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ擧グルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確約ス

(一) 日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動

外務省

0156

INT 357

117

ヲ禁絶スルコト

(二) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スルコト

(三) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一) 支那現中央政府ニシテ此際反省願意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス

帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進テ支那ノ復興發展ニ

外務省

0157

INT 357

118

衷心協力スルモノトス

(二) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國國交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ消滅ヲ圖リ又ハ新興中央政府權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲國家總力就中國防カノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

外務省

13.1

293 IMT 357

119

0158

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導ス

對外啓發ニツキテモ亦同シ

外務省

13.1

294 IMT 357

120

0159

820

電 信 案

略的ニ備カントスル且内趨勢ニ對シ豫メ豫防

再建ノ根本方針ヲ確立シ置キ動モ之ハ侵

本邦領ヨリ此ノ際市前會議ニ於テ日支互ニ交

審議ヲ完了シ居ル次第ナル交甚ノ後矢多謀

ノ條件ハ在索猶遠大使ニ對シ回答ノ際一切ノ

認甲成立シ又國民政府トノ和平解決ノ場合

ハトシテ十二月二十四日閣議決定ノ事變對交要

(原議用紙乙)

303 TMT 357

129

0161

大 官

820

(分類)

電 信 案

支那事變處理方針ニ付テハ曩ニ客年十月

一日決定ノ對交要點アリ更ニ和戰兩様ノ備

往電合第 九八號ニ付シ

支那事變處理方針決定

在天津 堀内総領事

在北平 森重参事友

在上海 島本総領事

電送第 679 681 號

昭和十一年十二月十二日午前 時 分 發

件 名

ニ付シ

合 第 一〇二 號

部外極秘

館長符

廣田大臣

昭和十一年一月十一日起草

電信課長 任主 東亞局長 任主 東亞局長

發電係

11 45

302 TMT 357

128

0160

方策ヲ講シ置ク必要アリトノ趣旨ヲ以テ市會
 會議用催方提^{熱心且精神}案^採中^議ニ於テ海軍共陸軍側
 カ右ノ如キ大乗的考トナリテハ洵ニ結構ニ付此
 ノ際^極精神^精活^活カシ置ク為參謀本部提^議案
 通り市會會議^採ニ於テ根本方針ヲ決定シ置ク
 事ト然ルヘシトノ意見トナリ陸海分三者ニ於テ
 協議ノ上成案ヲ得政府大率管連絡

(原議用紙乙)

0162

304 TMT 357 130

電信案

外務省

會議^採閣議^採並^ニ市會^採決定^採案^採ニ於テ
 十日冒頭後電ノ通り市會會議ニ於テ決定
 事ト然ルヘシトノ意見トナリ陸海分三者ニ於テ
 協議ノ上成案ヲ得政府大率管連絡
 本電之先 上海 北平 天津

(原議用紙乙)

0163

305 TMT 357 131

電信案

外務省